

水たまりでも、雨天時でも大丈夫！ いつでも施工が可能な道路補修材 ～四国の道路舗装技術を、カンボジアで展開～

国際協力機構(JICA)は9月2日、愛媛県の株式会社愛亀による「高品質な道路補修材の普及と舗装マネジメントシステムに係る案件化調査」を仮採択としました。

カンボジアでは、2000年以降から日本や各国の支援を受けつつ道路交通インフラ整備が実施されています。近年の経済発展に伴う急激な交通量の増加や、過積載車両の往来により、これまで整備された道路の損傷が激しくなっています。

適切なタイミングで補修が行われないと損傷が進み、予算や工期が嵩むだけでなく、安全輸送の妨げとなり、交通事故の多発の要因の一つとなり、これらは同国の開発課題となっています。



*カンボジアの道路状況

長年、国内の道路舗装工事に携わってきた愛媛県の株式会社愛亀は、同社の製品である「常温舗装補修材」や「道路維持管理」技術が、これらの課題に貢献できるのではないかと考え、JICAの「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」に応募し今回仮採択となりました。

この調査では、カンボジアの雨季時のポットホールや洪水等による道路損傷に係る補修工事の必要性に対し、緊急補修や単位復旧ができ、当国の条件に応じた製造ができる補修材は交通事故を防ぎ、舗装マネジメントシステムを作り出すことで、維持管理予算の削減を目指します。



地域に根付き、いつでも、どんな状況でも補修ができる、「インフラ整備の町医者」のような存在を目指し、企業目標としています。

* 案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度は本年5月に公示を行いました。176件の応募のうち26件が仮採択され、今後、JICAとの契約に至ったものから、順次調査を実施します。